



むかーし…あったとき

あるところに貧乏なじいさまと ばあさまがあった…

じいさまは 毎日編み笠をこしらえては 町に行って それを売って暮らしていたとき…

ある年の大晦日のこと…じいさまはこういった…

ばあさん 今日はおれ 笠を五つもこしらえた…この笠を売って今年こそはいい年をとるべえ」

1

するとばあさまも

ほいはい…それじゃあ火いたいてまっているから」

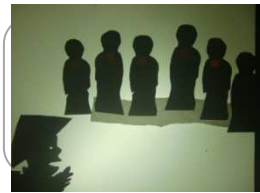
こういってじいさまを送りだしたとき…

さーて 町へ着いて じいさまは笠を売りにかかった…

笠やあ…笠 笠はいらんか」

こういって 上町から下町 下町から上町…何べんも歩いた…

2



にぎやかな 年越しの市では 魚や米は飛ぶように売れても じいさまの笠なんか 見向きもされなかった：

そのうち日が暮れて雪がモカモカ降ってきたので じいさまは 仕方なく笠を背負って戻っていった：途中の広い野原に来たころにはとうとう吹雪になった：

野原には石の地藏様たちが六人並んで立っているばかり：見れば吹雪にさらされて顔からつららをたらしていたので

「あやあ：むごいことだなあ：裸で雪かぶってさぞ寒かろう」

じいさまは 売り物の笠を順々に地藏様にかぶせていった：

3

一つ：二つ：三つ：四つ：五つ：地藏様は六人なので一つ足りない：
そこで最後の地藏様にはじいさまは自分のかぶっていた笠を脱いでかぶせてそのままうちへ帰っていったとき：

劇団 オン・サンタ

じいさまが自分の笠までなくして真っ白になって帰ってきたのでばあさまはびっくりしたが じいさまがすっかり話をするとばあさまはこういった：

「そうかそうか：それはいいことをしなすった：なあに：笠を持って来たって今夜のたしにはならないもの：お地藏様にさしあげてほんとよか

4

ったなあ…」

そうしてその晩は 二人してすっぱり飯をサクサク食べて寝てしまったんだとき…

すると正月の明け方に遠くから何かを引っ張るような掛け声が聞こえてきた…

「よういさ よういさ よういさな」

「よういさ よういさ よういさな」

5

じいさまとばあさまは目を覚ました…そうして元日の朝にいったいだれが何をしているのだろうかと思議に思っている

「よういさ よういさ よういさな」

掛け声がだんだん近づいてくる…そのうちこんな声が聞こえてきた…

「六大地蔵さ 笠とってかぶせてくれた じいうちあどこだ ばあうちあどこだ よういさ よういさ よういさな…じいうちあどこだ…ド

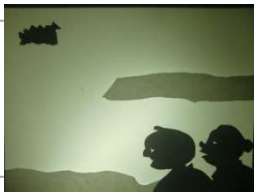
シーン」

家の外で何か重いものが落ちこちるような音がして それからは急に静かになった…

6



劇団 オン・サンタ



それまで恐ろしげに様子をうかがっていたじいさまとばあさまが雨戸を開けてみるとそこには大きな俵が一つ置いてあった：そうして遠くのほうに編み笠をかぶった六人の人たちが夜明けの薄明かりの中をノツコノツコと帰って行くのが見えた：

じいさまとばあさまが俵を開けてみると 中には正月のもちやら 魚やら 家に飾る宝やら お金やらがザランザランつまっておった：

それから二人はずーっと仲良くくらしただんだとき：

いっちゃんぼーん さけた

おしまい



参考文献

かさじぞう」 瀬田貞二・再話 福音館

かさじぞう」 大石真・文 チャイルド本社

かさじぞう」 西本鶏介・文 ポプラ社

日本の民話 6」 民話の研究会・編 世界文化社

劇団 オン・サンタ

